かごしま　NIE実践校

掲示された新聞を読む児童

荒田小学校（鹿児島市）
多様な視点学び合う

実践校2年目となり、引き続き新聞を読む習慣の定着を目指した。

階段の踊り場にはクリアファイルに入れた新聞各紙が並び、図書室にも専用の新聞台を設置。読者投稿も積極的に取り組み、〝ネタ探し〟をする児童の姿も。5、6年生では、気になる記事について毎日のホームルームで1分間スピーチをしたり、日記を書き、複数の児童の感想を見比べたりした。

児童に人気なのはスポーツ関連のほか、野菜の高騰や世界自然遺産といった地元に関連する記事だ。

NIE担当の福薗徹教諭(36)は「多様な視点を学ぶことで、自分の考えを表現できる力がついてきた」と効果を語る。一方、「記事の選び方や、どれだけストックするかは教師の裁量が大きい。効果的に記事を引き出せる仕組みづくりが課題」と話した。

（西悠宇）

課題解決のヒントを新聞で探す生徒

鶴翔高校（阿久根市）
記事から解決策探る

実践校としての4年目は、社会科の上釜宗之教諭(28)が授業で新聞を活用する。直近の記事を参考に、身近な問題をどう考えるかなどを生徒に問いかけ、意見を共有させている。

この日は1年生の現代社会で、阿久根市の現状や課題を取り上げた。配布された新聞記事をもとに、地方が抱える問題を分析し、解決の糸口を探った。

空き家対策については、ほかの自治体の取り組みを紹介する記事を参考に「移住者を呼び込む活動を」などの提案があった。礒永雛花さんは「授業を通じて記事の流れ方、読み方が理解できてきた」と話した。

上釜教諭は「年度初めは反応が薄かったが、最近では生徒からの発言もみられる」と効果を話す。今後、18歳選挙権などを取り上げ、社会への意識を高めるように活用する予定だ。

（田中公人）